

第26回SBC杯長野県高等学校 新人放送コンテスト

(兼 第8回長野県高文連放送専門部県フェスティバル)

運営要綱



12月15日(土) 番組部門(ビデオメッセージ、オーディオドラマ、ビデオリーディング)
12月16日(日) アナウンス、朗読部門

於 長野市生涯学習センター トイゴ
大会ホームページ <http://hcon.dip.jp/>

主催：長野県高等学校文化連盟放送専門部(兼主管)
共催：SBC信越放送 長野県高等学校視聴覚教育研究会
後援：長野県教育委員会

役員日程表 (敬称略)

12月15日(土)番組部門公開審査

9:00 ~	役員顧問集合(4F学習室)簡単な打ち合わせ 会場準備(長野高校生徒) 受付準備(長野西高校生徒)
10:00 ~ 10:30	受付(長野西高校生徒4名、担当 伊藤 高山) [4F 大学習室1入口] 審査打ち合わせ会議(進行 中平) [3F 第5学習室]
10:30 ~ 10:50	開会行事(進行:伊藤) [4F 大学習室1] 1.挨拶 高文連(米山明廣 放送専門部部長・赤穂高等学校長) 信越放送(船戸導洋 信越放送アナウンス室 室長) 2.昨年度最優秀者・楯返還・レポ 功授与(米山明廣 放送専門部部長) 3.審査員紹介(林) 4.諸注意(宮崎)
10:50 ~ 12:10	審査 ビデオメッセージ 一般公開[4F 大学習室1] 審査も同会場
12:10 ~ 13:40	昼食、AP部門リハーサル(担当:宮島 宮崎) [役員昼食会場 1F店舗]
13:40 ~ 15:10	審査 AP部門・ビデオフリー部門 一般公開[4F 大学習室1] 審査も同会場
15:10 ~ 15:40	交流会 (担当:林) [4F 大学習室1] 審査会 (統括:中平) [3F 第5学習室]
15:40 ~ 16:10	審査講評 AP・メッセージ,フリー部門 [4F 大学習室1] 久保 正彰(信越放送ラジオ編成制作部長) 上条 剛正(信越放送制作局制作部) (進行:宮崎)
16:10 ~	翌日の準備 専門委員・生徒

12月16日(日)アナウンス・朗読部門公開審査

10:00 ~ 10:30	受付(長野西高校生徒3名、担当 伊藤 高山) [4F 大学習室1入口] 審査打ち合わせ会議(進行 栗山) [3F 第5学習室]
10:30 ~ 10:35	審査員紹介(林) 諸注意(宮崎) [4F 大学習室1]
10:35 ~ 12:20	審査 朗読部門[4F 大学習室1], 審査も同会場
12:20 ~ 13:30	昼食 審査員[1F店舗] 13:10より顧問会 [3F 第5学習室]
13:30 ~ 14:30	審査 アナウンス部門[4F 大学習室1], 審査も同会場
14:30 ~ 15:00 15:00 ~ 15:20	審査会(統括:中村) [3F 第5学習室] (同時進行:北信越長野大会記録ビデオ)(中平) 審査講評 アナウンス部門、朗読部門 天野 紘(元長崎北高校教諭) 船戸導洋(信越放送アナウンス室 室長) 三島さやか(信越放送ラジオ編成制作部) [4F 大学習室1]
15:20 ~ 15:50	閉会行事(進行:宮崎) [4F 大学習室1] 1.審査結果発表(林) 2.表彰(米山明廣 高文連放送専門部長・赤穂高等学校長) 3.挨拶 高文連(米山明廣 放送専門部長・赤穂高等学校長) 信越放送(船戸導洋 信越放送アナウンス室 室長) 4.諸連絡(林)
15:50 ~	会場片づけ 専門委員・生徒 上部大会手続き [3F 第5学習室](林)

審査員・役員一覧表 (順不同・敬称略)

長野県高等学校文化連盟放送専門部長 米山 明廣 長野県高等学校文化連盟放送専門部委員長 林 直哉 事務局(審査集計・賞状筆耕) 宮崎 潤 伊藤光宏 高山佳子	
A P・ビデオメッセージ・テレビ番組フリー部門 統括 (中平智昭)	
A : 久保 正彰 (信越放送ラジオ編成制作部長) B : 上条 剛正 (信越放送制作局制作部) C : 中平智昭 (赤穂) D : 百瀬秀俊 (松商学園) E : 熊谷典明 (松本蟻ヶ崎) F : 椿 宏尚 (大町北) G : 江原一幸 (岡谷南) 特別審査員 天野 紘 (元長崎北高校教諭)	進行: 宮崎 潤 (上田) 技術: 信越放送・宮島和昭 (上田千曲) 計測: 牧野健一 (上田染谷) 宮尾久枝 (長野西) 著作権審査: 西林昭隆 (穂高商業) 写真撮影: 熊谷典明 (松本蟻ヶ崎)
アナウンス・朗読部門 統括 (中村大祐)	
A : 船戸導洋 (信越放送アナウンス室 室長) B : 三島さやか (信越放送ラジオ編成制作部) C : 中村大祐 (長野) D : 寺島 彰 (小諸商業) E : 百瀬秀俊 (松商学園) F : 落合康隆 (上田) G : 栗山嘉章 (坂城) H : 椿 宏尚 (大町北) I : 山口美由紀 (上田染谷) 特別審査員 天野 紘 (元長崎東高校教諭)	進行: 中平智昭 (赤穂) 計測: 熊谷典明 (松本蟻ヶ崎) 佐久間啓史 (須坂) 山田泰生 (松本松南) 宮尾久枝 (長野西) 技術: 信越放送・宮島和昭 (上田千曲) 写真撮影: 熊谷典明 (松本蟻ヶ崎)

【生徒補助員一覧】

受付補助	長野西高校
技術補助	上田千曲高校
会場設営	長野高校

【部屋割】

公開審査会場	大学習室 1 (4階)
練習会場	学習室 3 (3階)
大会運営本部(集計室)	学習室 4 (4階)
審査会・顧問会会場	学習室 5 (3階)
救護・予備室	控室 1 (4階)

【準備物関係】

1. 公開審査関係

NO	機材	数量	用意	備考
1	マイク	2	SBC	読み 司会 SHURE SM58
2	マイクスタンド	1	SBC	卓上・フレキシブル
3	マイクスタンド	1	SBC	ブームスタンド
4	マイクケーブル	2	SBC	キャノンオス・メス
5	音声ディレイ	1	SBC	ステレオ仕様 YAMAHA REV5(7)
6	再生用DV	2	松商 大町北	予備含む
7	再生用MD	2	上田千曲・上田	予備含む
8	同録用HDDレコーダ	2	事務局・上田千曲	予備含む
9	モニターテレビ	1	梓川	3連
10	音声ミサー	1	上田千曲	YAMAHA MG16/4
11	映像特殊効果装置SEG	1	上田千曲	Roland V4
12	JPEG用PC	1	上田千曲	AP、アナ
13	文字発生用PC	1	上田千曲	タイトル、テロップ
14	PC用ダウンコンバータ	2	上田千曲・上田	BUFFALO SC-1
15	顔出し用ビデオカメラ	1	上田千曲	SONY VX2100 + カメラマン
16	客席ビデオプロジェクタ	1	会場	ホール既設
17	音声接続ケーブル	一式	上田千曲	XLR、RCA、Phono
18	映像接続ケーブル	一式	上田千曲	長尺含む
19	電源分配用タップ	一式	上田千曲	
20	グラフィックライザー	1	上田千曲 or 梓川	CEQ231FL (FBQ6200)

SBC 技術担当
 アクテック 北田さん
 026-251-1251

2. 運営事務関係

パソコン	伊藤・宮崎	USBケーブル含む
プリンター	事務局・伊藤	

3. 事前準備物

看板・掲示物	(SBC)	審査用紙・点数集計表	(伊藤)
運営要綱	(宮崎)	生徒用パンフレット	(宮崎)
アンケート用紙	(林)	アンケート用紙回収箱	(林)
賞状用紙	(SBC・宮崎)	白布	(SBC)
賞状用お盆	(SBC)		

第26回SBC杯長野県新人放送コンテスト 参加状況

学校名	AP	VM	TF	アナウンス	朗読	総計
梓川	1	1		3	2	7
岡谷南	1	1		2	3	7
松商学園	1	2	1	6	5	15
松本嬢ヶ崎		1	1	2	3	7
松本美須ヶ丘	1	1		2	2	6
上田	1	1		2	4	8
上田千曲		1		3	1	5
須坂				2	2	4
大町北		1			5	6
長野	1	1		1	2	5
長野吉田					1	1
長野西		1		2	4	7
飯田風越					1	1
上田染谷丘			1	2	2	5
上田東			1		2	3
中野西			1			1
赤穂				1		1
総計	6	11	5	28	39	89

【参考】過去の大会の参加状況

	AP	メッセージ	フリー	アナウンス	朗読	合計	参加校数
第25回	5	11	6	34	36	92	16
第24回	4	12	5	37	43	101	15
第23回	6	10	6	23	38	83	17
第22回	4	10	7	30	44	95	19
第21回	4	11	7	29	54	105	23
第20回	3	14	5	23	35	80	17
第19回	4	12	5	25	39	85	15
第18回	5	8	3	25	30	71	12
第17回	4	14	7	30	25	80	15
第16回	6	11	8	33	47	105	21
第15回	6	7	8	43	45	109	17
第14回	7	14	3	42	44	110	19
第13回	10	14	中止	48	49	121	18
第12回	7	10	9	67	63	156	20
第11回	4	9	7	50	45	115	19
第10回		9	7	68	57	141	21
第9回		7	3	51	46	107	21
第8回				53	45	98	20
印回 各校イントロ-アナ4朗3							

エントリー一覧

【番組部門】

部門	エントリ 番号	学校名	作品 氏名	時間
AP	1	松本美須ヶ丘	未来へ続けこの瞬間(とき)を	4:59
	2	上田	紡ぐ伝統	5:00
	3	岡谷南	好きだから	5:00
	4	松商学園	消えゆく伝統、守る職人	4:58
	5	梓川	アルプス太鼓をたたこう	5:00
	6	長野	26才 - 音色の背後に	5:00
TF	1	松本蟻ヶ崎	暇人	6:00
	2	中野西	翔舞祭(文化祭PRビデオ)	6:00
	3	上田染谷丘	こくばん	2:00
	4	松商学園	DARY	12:00
	5	上田東	貫け！青春の日々	1:30
VM	1	松本美須ヶ丘	Japanese Folk Dols	4:59
	2	岡谷南	さくら咲け！	5:00
	3	長野西	つた	5:00
	4	上田	新幹線は来たけれど・・・	5:00
	5	松商学園	つながる一本の絆	4:58
	6	梓川	スイ変わ～るフルコース	5:00
	7	長野	「身近な凶器」	5:00
	8	上田千曲	厄除まんぢう～ あんこと愛を包んで～	5:00
	9	松本蟻ヶ崎	逸山	4:48
	10	大町北	サルヒトイヌで...	5:00
	11	松商学園	ゆとりって何だろう？	4:58

平成20年度 第55回NHK杯全国高校放送コンテスト 朗読指定作品について

第55回大会朗読部門の指定作品は下記のとおりです。

- (1) 『檸檬』 梶井 基次郎 著 (新潮文庫)
 - (2) 『春の数えかた』 日高 敏隆 著 (新潮文庫)
 - (3) 『しゃべれども しゃべれども』 佐藤 多佳子 著 (新潮文庫)
 - (4) 『クリスマス カロル』 デイクンズ 著
村岡 花子 訳 (新潮文庫)
 - (5) 『源氏物語』 第一帖 桐壺」 紫式部 著
- (1)と(2)は収録作品のいずれを選んでよい。

【アナウンス部門】

1	あおやぎちか 青柳知佳	梓川	1年	女	憲法をつくらうゼミについて
2	いけがみみどり 池上緑	岡谷南	2年	女	笑顔まもり隊について
3	こばやし こうたろう 小林 孝太郎	松本蟻ヶ崎	1年	男	作業療法士の方について
4	かしかわ まい 梶川 麻衣	松商学園	1年	女	想いをのせて絵手紙を書き続ける寺島さんについて
5	きはら まなみ 木原愛美	須坂	1年	女	新設シニアリーダー
6	さかもと みゆき 坂本 みゆ希	松本美須ヶ丘	1年	女	押し絵雛について
7	わかばやし まり 若林真理	須坂	2年	女	広がる町おこしの輪
8	はやかわ みお 早川 美央	長野西	2年	女	音楽を通して広がる輪について
9	ごとう かおり 後藤 加織	松商学園	2年	女	大正琴を広めようとしている木村さんについて
10	なかにしりか 中西璃香	上田染谷丘	1年	女	振動でプロペラをまわそう
11	すずき ゆき 鈴木 夕貴	松本美須ヶ丘	2年	女	花いっぱい運動について
12	よしむら みく 吉村 美紅	松商学園	2年	女	手話通訳士をしている武居さんについて
13	てらだいらみほ 寺平美穂	赤穂	1年	女	公開講座について
14	こばやし としゆき 小林 稔幸	上田千曲	1年	男	日本一のリンゴ
15	きよさわ ちひろ 清澤 千紘	松商学園	1年	女	酒作りの伝統を伝えていく竹本さんについて
16	もちつききりん 望月貴琳	梓川	1年	女	太鼓ゼミについて
17	ふるた しずか 古田 静佳	松本蟻ヶ崎	1年	女	英語ディベート大会について
18	えべ あやか 江部 綾香	長野西	1年	女	郷土料理について
19	たむら ちほり 田村 千穂里	上田千曲	1年	女	長野県の方言
20	ふじた みおり 藤田 美織	長野	1年	女	百人一首の会について
21	さとうまどか 佐藤真都香	上田染谷丘	1年	女	夢を乗せて走る電車へ
22	ふりはた さおり 降旗 沙織	松商学園	2年	女	笛芸や楽器演奏でボランティアをしている押沢さんについて
23	ながい あけみ 永井 明美	上田千曲	1年	女	上田市のイルミネーション
24	おおさわしおみ 大澤汐未	上田	2年	女	蝶々夫人
25	きむら あづさ 木村 あづさ	松商学園	2年	女	刻字に打ちこむ小西さんについて
26	たけいりあすみ 竹入愛澄	岡谷南	2年	女	柿すだれについて
27	しおばらよしの 塩原桜	上田	1年	女	一枚の絵
28	たかぎあやか 高木綾香	梓川	1年	女	スイカゼミについて

【朗読部門】

1	しらとり しおん 白鳥 詩苑	長野西	1年	女	松久 淳+田中 渉作 天国の本屋
2	くらすわとしこ 倉沢登詩子	上田染谷丘	2年	女	丸岡 秀子作 「ひとすじの道」
3	わたなべまりこ 渡辺真理子	長野吉田	1年	女	和田 登作 「泣かないでマンドリン」
4	さいとう なおみ 齋藤 菜穂美	松商学園	2年	女	松久 淳・田中 渉作 「ラブ コメ」
5	うらの ひとみ 浦野仁美	須坂	2年	女	南木佳士作 「ダイヤモンドダスト」
6	ほそかわ しょうへい 細川 翔平	松商学園	1年	男	井上靖作 「風林火山」
7	うるま みつき 漆間 美月	松本美須ヶ丘	1年	女	藤本ひとみ作 「愛の迷宮でだきしめて！」
8	たかぎ あきこ 高木 晃子	長野	1年	女	芥川龍之介作 「阿童」
9	よこや ゆうたろう 横谷 友太郎	上田東	1年	男	新田 次郎作 「諏訪二の丸騒動」
10	みむらさとみ 三村里美	梓川	1年	女	松久 淳・田中 渉作 「天国の本屋」
11	やまぎわよしこ 山極佳子	上田	1年	女	池波正太郎作 「真田太平記」
12	たなかともこ 田中朋子	上田	2年	女	田中 渉 + 松下 淳作 「ウォーターマン」
13	なかのなみ 中野菜木	岡谷南	1年	女	藤原てい作 「流れる星は生きている」
14	まるた はるか 丸田 遥香	長野西	1年	女	杉山幸子作 「賢女さん 高田賢女の心を求めて」
15	よこやま あやか 横山 絢香	松本蟻ヶ崎	1年	女	南木佳士作「ダイヤモンドダスト」
16	はらやま あさみ 原山 亜沙美	大町北	2年	女	椋鳩十作 「夕やけ色のさようなら」
17	ぐしけん まりえ 具志堅 茉莉絵	松商学園	2年	女	松久 淳・田中 渉作 「ホワイトグッドバイ」
18	さとう さき 佐藤沙紀	須坂	2年	女	和田 登作 「青い目の星座」
19	おおの かずき 大野 一樹	大町北	1年	男	南木佳士作 「ダイヤモンドダスト」
20	いけうち ゆうた 池内 雄太	上田東	1年	男	椋 鳩十作 「信濃動物記(抄)」
21	かみじょう あやか 上條 綾香	松本美須ヶ丘	1年	女	今邑彩作 「いつもの朝に」
22	あわだ まさゆき 粟田 将之	大町北	1年	男	西沢聖子作 「わたしは盲導犬」
23	いまいかおり 今井香里	岡谷南	1年	女	松久 淳・田中 渉作 「天国の本屋」
24	くらすわみき 倉沢実紀	上田	2年	女	新田次郎作 「富士山頂」
25	みわ あやか 三輪 彩佳	松商学園	1年	女	今邑彩作 「つきまとわれて」
26	ふりはた あや 降旗 文	大町北	1年	女	吉橋通夫作 「凜九郎」
27	やまだ たきおん 山田 滝音	長野西	2年	男	松久 淳+田中 渉作 うつしいるのゆめ
28	うしやまかな 牛山華奈	岡谷南	1年	女	藤原てい作 「流れる星は生きている」
29	あかがわ みさと 赤川 美里	上田千曲	1年	女	宮本雅史作 「電池が切れるまで」の仲間たち 子ども病院物語」
30	まるやま さやこ 丸山 清子	長野	2年	女	島崎藤村作 「船」
31	やなぎさわまりえ 柳澤真梨恵	上田	2年	女	小宮山量平作 「千曲川」
32	やまくちようこ 山口陽子	上田染谷丘	1年	女	松久 淳・田中 渉作 「ウォーターマン」
33	いけがき ちなみ 池垣 千菜実	長野西	1年	女	椋 鳩十作 月の輪グマ
34	うえはらりょうが 上原峻雅	梓川	1年	男	南木佳士作 「ダイヤモンドダスト」
35	おくはら あき 奥原 亜季	松商学園	1年	女	松久 淳・田中 渉作 「恋火」
36	はら ゆかり 原 ゆかり	飯田風越	2年	女	藤本ひとみ作 「バスティーユの陰謀」
37	ふたつぎ ゆいな 二木 唯奈	松本蟻ヶ崎	1年	女	南木佳士作「ダイヤモンドダスト」
38	ながやま みなみ 永山 美波	大町北	1年	女	神津良子作 「諏訪姫」

生徒日程表

12月16日(土) 番組部門公開審査 (会場はすべて 公開審査 4F 大学習室 練習会場 3F 学習室3)

10:00～10:30	受付	[4F 大学習室1入口]
10:30～10:50	開会行事 挨拶(高文連、信越放送) レプリカ授与、審査員紹介、諸注意	
10:50～12:10	審査 ビデオメッセージ部門	
12:10～13:40	昼食 AP部門リハーサル	
13:40～15:10	審査 AP部門 フリー部門	
15:10～15:40		
15:40～16:10	交流会 審査講評 AP, メッセージ, フリー部門	

12月17日(日) アナウンス・朗読部門公開審査

10:00～10:30	受付 (受付後4F 大学習室1へ)	[4F 大学習室1入口]
10:30～10:35	諸連絡、審査員紹介	
10:35～12:20	審査 朗読部門	
12:20～13:30	昼食	
13:30～14:30	審査 アナウンス部門	
14:30～15:00	北信越長野大会記録ビデオ	
15:00～15:20	審査講評	
15:20～15:50	閉会行事 審査結果発表、表彰、挨拶(SBC、放送専門部) 連絡	

【諸注意、連絡各】

- 審査時間等により上記の日程が変更される可能性もあるので注意してください。
- 全日程を良識ある行動で過ごすこと。
- 日程内の行動は一切指示に従い、勝手な行動はとらないでください。
- 会場は一般の方も利用しています。
 - 10:00までは、SBC棟側の入口は使用できません。東側(セブンイレブンとモスバーガーの間)の入口を利用して、エレベータで4階まで上がってください。
 - 指定の「第3学習室」以外の場所での発声練習は禁止です。
 - 指定以外の部屋には立ち入らないでください。廊下等で騒がないでください。
 - 生涯学習センターは、飲食は原則禁止です。(今回より、ペットボトル入りのお茶は許可になりました。) 昼食は、館内1～2Fの商業施設を利用するか、昭和通り反対側の「もんぜんプラザ」2F、3Fの休憩所を利用してください。
 - 会場の駐車場は有料です。できるだけ公共交通機関を利用してください。
- 審査中について
 - 静粛を保ってください。(静粛を保てない場合は退場を命ずる場合もあります。)
 - アナウンス・朗読の発表者は5人ずつ前に出て、進行係の先生の指示に従ってください。
 - 机に入退席するときに礼はしないでください。準備ができたなら読み始めてください。
 - 審査時間中の写真撮影は厳禁とします。(昼休み等を利用してください。)
 - 机上には録音のためのマイク器具類は一切置かないでください。
また、機器のON, OFFも、発表の途中に行わないでください。
 - APの発表はMD操作、コンピューター操作を発表校が行なってください。
- 番組部門(AP・ビデオメッセージ・ビデオフリー)に参加する学校は、作品上映に先立って、会場のマイクで、作品の制作意図を30秒(200字)程度で代表1名が発表してください。
(ただし、この発表については、審査対象とはしません。)
- 番組部門においては、受付で渡されたアンケート用紙に、各作品の感想を書き、審査終了後に高校名の書いてある箱に入れて下さい。
- 番組部門発表終了後、各校の交流会を持ちます。番組発表校は代表1名を出してください。
代表者には、「1番良かった作品とその理由」、「1番惜しかったと思う作品と、ここを直せば良かったと思う点」を発表してもらい、他校への質問や、他校からの質問にも答えてもらいたいと思いますので準備しておいてください。

第26回SBC杯長野県高等学校新人放送コンテスト 審査要項

長野県高等学校文化連盟放送専門部

審査会

1. 各部門とも最低6名の審査員で構成し、最低2名は専門職としてSBC職員。最低4名は教育職として、長野県高等学校文化連盟放送専門部所属の教職員が当たる。実状によって、6名以上の審査員で審査することを妨げない。
2. 審査委員長には長野県高等学校文化連盟放送専門部長がその任にあたり、各部門の審査会を統括する。
3. 審査委員長の委嘱を受けた各部門審査員の代表は審査会の意見を整理し、審査講評をする。

審査方法

1. 番組部門はテープによる公開審査。オーディオピクチャー部門はMDとJPEG形式のデジタル静止画像による公開審査。アナウンス・朗読部門は本人参加の公開審査で行い、いずれもスピーカーからの音声で審査する。
2. 番組部門の審査に当たっては、テープ再生機器レベルは、各作品冒頭部分のナレーションまたはインタビューのレベルを基準レベルとし再生・視聴する。アナウンス・朗読部門の審査に当たっては、モニターレベル等を標準レベルにセットし標準固定条件の中で行う。個々の発表者毎の調整を行わない。オーディオピクチャー部門については、発表者による音量調節を認める。番組・オーディオピクチャー部門の音声はステレオ再生する。

表彰者の選抜

1. 各部門(全部で5部門)の参加全作品について、別に定める基準にしたがい、優秀、優良、奨励を与える。各部門ごとに「SBC賞」を1本(計5本)を選抜する。
2. 優秀、優良、奨励は、審査員のつけた素点のうち上下カットしたものの平均点で判定する。80点以上を優秀、80点未満70点以上を優良、70点未満を奨励賞とする。
3. 各部門とも偏差値方式の高得点順に、全国大会・北信越大会への代表を決定する。
 - (ア) 全国高等学校総合文化祭への推薦について
 - (1) アナウンス部門・朗読部門 各3名
 - (2) オーディオピクチャー部門 1作品
 - (3) ビデオメッセージ部門 2作品ただし、(ビデオメッセージ部門、オーディオピクチャー部門)及び(アナウンス部門、朗読部門)内での同一校複数の推薦はしないものとする。
 - (イ) 北信越選抜放送大会(北信越地区高等学校文化連盟主催)への推薦について
 - (1) アナウンス部門・朗読部門 各4名
 - (2) オーディオピクチャー部門 2作品
 - (3) ビデオメッセージ部門 3作品この大会への同一高校の推薦は、各部門1つとする。
棄権、失格等が生じた場合は、事後に専門部長の判断で繰り上げて推薦することがある。
4. 偏差値方式による代表決定の際に同得点の場合は
 - (1) 専門職の得点の多い方を上位とする。
 - (2) 高得点をつけた審査員の多い方を上位とする。それでも同得点の場合や、その他の問題点のある場合は全て審査会の合議によって決定する。

失格

1. 様式規定(台本・原稿)や各部門毎の参加(制作)上の注意に反したものは失格とし、審査対象外とする。
2. コンテスト終了後、著作物の処理等が完了しないなどの理由で、作品の公開ができないと判断される場合は、審査委員長の責任において、上部大会への推薦の取消、入賞の取消等を行うことがある。

採点・配点・集計

1. 各審査員の独自の判定により採点する。
2. 集計された得点を基にして審査会として集約した審査結果にまとめる。
3. 各部門とも別項の審査視点をふまえ1点きざみの100点満点で採点する。
4. 集計にあたっては
 - (ア) 素点の平均点
審査員のつけた素点のうち、最高点、最低点をカットしたものの平均点を小数点以下第1位を四捨五入し、

優秀、優良、奨励の判定の資料にする。

(イ) 偏差値の平均点

審査員ごとに、すべての被審査者（作品）に対する採点を母集団とする偏差値を算出する。

全審査員の最高点、最低点を除き、偏差値の平均を算出（小数点下2位を四捨五入）し、表彰の審査資料とする。

審査基準

【1】アナウンス部門

1. 県内の話題を全国の高校生に伝える内容の自作原稿とします。発表は、番号、学校名、氏名に続いて原稿を読むものとします。JPEG 画像 5 枚以内を併用できるものとします。発表時間は、番号、学校名、氏名を含めて 1 分 30 秒以内とします。
2. 審査の視点として
 - ア．原稿
 - (1) 素材の選び方 (2) 文章(写真)表現 (3) 内容
 - イ．アナウンスの技術
 - (1) マイクの使い方 (2) 発声 (3) アクセント (4) イントネーション
 - (5) テンポ (6) ポーズのとり方

【2】朗読部門

1. 長野県にゆかりのある作家および作品の中から原文のままを一部選んで原稿とします。発表時間は、番号、学校名、氏名、作者名及び作品名を含めて 2 分以内とします。
2. 審査の視点として
 - ア．原稿
 - (1) 作品の選定 (2) 朗読部分の抽出の仕方
 - イ．朗読の技術
 - (1) マイクの使い方 (2) 発声 (3) アクセント (4) イントネーション
 - (5) テンポ (6) ポーズの取り方 (7) 内容の把握 (8) 表現のしかた

アナウンス朗読の配点について

点数は 100 点法。おおむねア．の項を 30%、イ．の項を 70%とする。

50 点を基準として、上下にプラス・マイナスし、採点する。

【3】オーディオ・ビクチャー部門

1. 高画質画像とステレオ音声の特徴を生かして、自分たちの住む地域の問題を、全国に伝える内容とします。MD によるステレオ音声と JPEG 形式のデジタル静止画像（50 画像以内、総容量 50 MB 以内）を併用する作品とします。ドキュメンタリー形式、ドラマ形式など手法は問いません。発表時間は 5 分以内とします。
2. 審査の視点と配点
 - テーマ点 50 点と、制作技術点 50 点に分けて配点する。
 - ア．テーマ点（50 点）

テーマを設定し、番組内容にテーマを効果的に表現しているか。

 - a．テーマをよくとらえ見事に表現している
 - b．テーマにふさわしい
 - c．テーマにふさわしいが今一歩
 - d．テーマからやはずれている
 - e．テーマにふさわしくない
 - イ．制作技術点（50 点）

審査の視点として

 - (1) 制作の手法 (2) 取材の方法や努力 (3) 企画構成 (4) 演出・編集
 - (5) 技術（録音・撮影の技術、アナウンスやナレーションの技術、音楽・効果音など）
 - a．特に優れている
 - b．優れている
 - c．普通である
 - d．やや劣る
 - e．はなはだしく劣る

【4】ビデオメッセージ部門

1. 県内の話題を全国の仲間伝える、自校オリジナルのビデオ作品とします。内容、手法は自由とします。発表

時間は5分以内とします。

2. 審査の視点と配点

テーマ点50点と、制作技術点50点に分けて配点する。

ア. テーマ点(50点)

テーマを理解し、番組内容にテーマを効果的に表現しているか。

- a. テーマをよくとらえ見事に表現している。
- b. テーマにふさわしい
- c. テーマにふさわしいが今一步
- d. テーマからややずれている
- e. テーマにふさわしくない

イ. 制作技術点(50点)

審査の視点として

- (1) 制作の手法 (2) 取材の方法や努力 (3) 企画構成 (4) 演出・編集
- (5) 技術(録音・撮影の技術、アナウンスやナレーションの技術、音楽・効果音など)
 - a. 特に優れている
 - b. 優れている
 - c. 普通である
 - d. やや劣る
 - e. はなはだしく劣る

【5】テレビ番組フリー部門

題材・内容とも自由(アニメ・CM・ドラマ・その他まったくのフリー)時間は12分以内で15秒程度のCMなどでもよい。

審査の視点と配点

テーマ点50点と、制作技術点50点に分けて配点する。

ア. テーマ点(50点)

テーマを設定し、番組内容にテーマを効果的に表現しているか。

- a. テーマをよくとらえ見事に表現している
- b. テーマにふさわしい
- c. テーマにふさわしいが今一步
- d. テーマからややずれている
- e. テーマにふさわしくない

イ. 制作技術点(50点)

審査の視点として

- (1) 制作の手法 (2) 取材の方法や努力 (3) 企画構成 (4) 演出・編集
- (5) 技術(録音・撮影の技術、アナウンスやナレーションの技術、音楽・効果音など)
 - a. 特に優れている
 - b. 優れている
 - c. 普通である
 - d. やや劣る
 - e. はなはだしく劣る

第26回SBC杯長野県高等学校新人放送コンテスト
(兼 第8回長野県高文連放送専門部県フェスティバル)

開催要項

1. 主催：長野県高等学校文化連盟放送専門部（兼主管）
共催：SBC信越放送、長野県高等学校視聴覚教育研究会
2. 後援：長野県教育委員会、長野市教育委員会
3. 主旨：放送活動を通じて高校生の豊かな人間性と美しく豊かな日本語を大切に
する心情を育成すると共に、校内放送活動の健全な育成と推進をはかる。
4. 部門：ビデオメッセージ（VM）部門 オーディオ・ピクチャー（AP）部門
テレビ番組フリー（TVF）部門 アナウンス部門 朗読部門
5. 会場：長野市生涯学習センター 長野市大字鶴賀間御所町 1271 番地 3
TOiGO WEST 3・4階 電話：026-233-8080
6. 日時：平成19年 12月15日（土） 番組部門
（ビデオメッセージ、オーディオ・ピクチャー、ビデオフリー）
受付 10:00～10:30 本館東口
12月16日（日） アナウンス、朗読部門
受付 10:00～10:30 本館東口
7. 内容
 - (1) アナウンス部門（1校6名まで）
 - ・長野県内の話題を全国の高校生に伝える内容の原稿を發表してください。
 - ・發表は、番号、学校名、氏名に続いて原稿を読むものとします。
 - ・JPEG形式のデジタル静止画像（5枚以内）を使用することができます。
投影は台本にしたがって、主催者が行います。（今年度より）
 - ・原稿のタイトルは読まないでください。發表時間は、番号、学校名、氏名を含めて1分30秒以内とします。
 - (2) 朗読部門（1校5名まで）
 - ・長野県ゆかりのある作家または作品の中から原文のままを一部選んで原稿とします。
 - ・發表は、番号、学校名、氏名、作者名及び作品名に続いて読むものとします。
 - ・發表時間は、番号、学校名、氏名、作者名及び作品名を含めて2分以内とします。
 - ・BGM 静止画等は使用することはできません。
 - (3) オーディオピクチャー（AP）部門（1校1作品）
 - ・長野県内の話題を題材とした作品とします。ドキュメンタリー形式、ドラマ形式など、手法は自由です。
 - ・MDによるステレオ音声とJPEG形式のデジタル静止画像（50枚以内、総容量は50MB以内）を併用する作品とします。
 - ・發表時間は5分以内とします。
 - ・画像の投影は發表校が行ってください。
 - (4) ビデオメッセージ（VM）部門（1校2作品まで）
 - ・長野県に関する話題を取り上げた、自校オリジナルのビデオ作品とします。内容、手法は自由です。
 - ・發表時間は5分以内とします。
 - (5) テレビ番組フリー（TVF）部門（1校1作品）
 - ・題材・内容とも自由とします。（アニメ・CM・ドラマ・その他まったくのフリー）
 - ・時間は12分以内としますが、15秒程度のCM等、下限は設けません。
8. 規格
 - (1) デジタル静止画像（アナウンス部門、AP部門）
 - ア 画像形式の指定について
 - ・ビデオプロジェクターにより、パソコンからJPEG形式のデジタル静止画像を投影するものとします。
解像度は1024×768推奨とします。
 - イ 画像の内容について
 - ・他の著作物を使用する場合は各校で著作権者の承諾を得てください。
 - ・コラージュ・テロップ挿入等の表現手法については制限をしません。著作物の改変にあたる場合は、権利者の許諾を得てください。

ウ 映写の方法、操作について

- ・ビデオプロジェクターを1台使用できます。
 - ・デジタル静止画像のデータは、AP部門はCD-Rにより提出。アナウンス部門はメールで提出し、データを主催者が用意したパソコンのハードディスクにあらかじめ転送しておきます。
- AP部門においては、画面を順次切り替える操作は発表校が行ってください。

エ ファイル名の指定について

- ・他校とのデータの間違いや、投影順の混乱を防ぐため画像ファイル名は以下のようにつけてください。
(学校名+投影順を示す二桁の番号)

例：信州高校の場合

1枚目：shi rsyu01.jpg 2枚目：shi rsyu02.jpg ……以降同様

アナウンス部門

1枚目：a-1.jpg 2枚目：a-2.jpg 3枚目：a-3.jpg ……以降同様

(2) 音声再生 (AP 部門)

ア MD (標準モードで録音してください。LPモードは不可) に1作品分を再生順に録音したものとします。
(MD上で複雑に編集したものは再生トラブルの原因になるので、1トラックにまとめておいてください。)

イ 再生エラーに備えてカセットに同内容のものを録音したのも用意してください。

ウ 再生と音量調節は、発表校で行ってください。

(3) ビデオ (VM 部門)

ア miniDV (DV規格は民生用、業務用は不可) のテープに録画したものとします。

イ テープスピードは、「SPモード」とします。「長時間LPモード」は使用しないでください。

ウ 音声トラックは、miniDV方式では「12bit stereo 1」「16bit stereo」のいずれか一つのステレオ再生とし、音声のミックス再生など、特別な再生方法は行いません。

エ 作品本編の前後に20秒間の静止画によるテストパターン(形式は自由)を録画してください。

オ 作品の再生は主催者が行います。

(4) 共通事項

ア 著作権、肖像権等の処理等については、参加団体で責任を持って行って下さい。

詳しくは、別紙「著作物の取り扱いについて」をごらんください。

これらの問題について、トラブル等が生じても、主催者は一切責任を持ちません。

- ・音楽著作物の使用について、権利者の許諾を必ず得て下さい。

- ・写真、ビデオ等の著作物については、必ず権利者の許諾を得て下さい。

これらの点に問題があり、作品が上部大会等で公開できないと判断される場合、賞の取り消し。全国大会への推薦の取り消しを行うことがあります。

イ 番組の台本はNHK杯の要項規定に準じたものを作成し、所定の部数を当日受付へ提出してください。

(<http://hcon.dip.jp/>にも今年度NHK杯の要項を参考においておきます。)

アナウンスの台本(jpeg画像を含む)・朗読の台本は、電子メールの本文に貼り付けて、電子メールで提出してください。(参加者1名につき、1メールでお願いします。様式は後のページを参考にしてください。)
従来の紙ベースの台本は受け付けません。12月8日(土)までに、送信してください。

ウ 各部門とも、提出作品はほかのコンクール等に参加していないものとします。

9. 参加申込について

締切を平成19年12月5日(水)正午とします。

【申し込み方法】

下記ホームページにて参加登録してください。なお、インターネットにアクセスできない場合はFaxでも受け付けますが、極力ホームページから申し込んで下さい。

番組部門で、JASRAC管理曲を使用した場合は、録音利用明細書に記入したものを、この時点で事務局へFAXしてください。(一昨年度からの変更点です)

確認のメールを指定のアドレスへ事務局より返送します。

12月6日(木)12時までに受付確認のメール(またはFAX)で返送するので、確認の上、間違い等がある場合、事務局まで大至急連絡をお願いします。(プログラム、賞状等の原稿になります。)

当日までに、郵便局で、参加料、JASRAC管理曲の使用料を振り込んでください。(一緒に振り込んでいただいても結構ですが、内訳を必ず通信欄にわかるように記入してください。)

正式の参加申し込み書（学校長印のあるもの）を、当日参加受付まで提出ください。

第26回SBC杯長野県高等学校新人放送コンテスト事務局

参加受付等の大会HPアドレス <http://hcon.dip.jp/>

上田高等学校 宮崎潤 気付

電話026-217-0080(直通) Fax 026-217-0081 email hcon@net.dip.jp

10. 提出物 参加部門により以下のものを当日受付へ提出してください
参加申込書（校長印捺印の物） 裏面に下記 を貼り付けてください。
JASRAC録音利用明細書（テレビ部門、AP部門別）
番組の台本2部、作品テープ等(アナウンス・朗読の台本は、12/8までに電子メールで提出)
参加費の郵便局への振込受領書の写し
コンテストについて不明な点は、勝手に判断せず、上記事務局までお問い合わせ下さい。
11. 参加資格：長野県内の高校に在籍する卒業学年以外の生徒に限ります。
統廃合が決定した学校どおしは、合同（チーム）参加することができます。この場合、同じ部門への統合前の学校での参加はできません。（全国への推薦は1チームを1校とみなします）
12. 参加料：朗読・アナウンス部門は1人につき1,000円。
ビデオメッセージ、オーディオピクチャー、ビデオフリー部門は1作品1,500円。
受付当日までに郵便局でお支払い下さい。
振込先は
口座番号 00580-2-94101
加入者名 長野県高校放送コンテスト事務局
通常払い込み料金加入者負担（受取人振込料金負担）で振り込んでいただいても結構です。
振込まれた参加料等は、棄権等の場合もお返しできません。
13. 表彰：審査員は信越放送の専門職員と高文連放送専門部所属の教職員が当たり、また表彰については各部門とも、絶対評価により、下記の通り行います。
SBC賞 1本、優秀賞、優良賞、奨励賞（絶対評価により授与します）
14. 上部大会への推薦について
(1)全国高等学校総合文化祭への推薦について
平成20年度第32回大会・群馬県伊勢崎市で平成20年8月9日(土)～10日(日)に行われるこの大会へ、以下の本数を推薦します。
(1)アナウンス部門・朗読部門 各3名
(2)オーディオピクチャー部門 1作品
(3)ビデオメッセージ部門 2作品
ただし、(ビデオメッセージ部門、オーディオピクチャー部門)及び(アナウンス部門、朗読部門)内での同一校複数の推薦はしません。
(2)北信越選抜放送大会(北信越地区高等学校文化連盟主催)への推薦について
平成19年度第4回大会は、平成19年2月に石川県で行われ、以下の本数を推薦します。
(1)アナウンス部門・朗読部門 各4名
(2)オーディオピクチャー部門 2作品
(3)ビデオメッセージ部門 3作品
この大会への同一高校の推薦は、各部門1つとします。また、棄権、失格等が生じた場合は、後日繰り上げて推薦する場合があります。
これらの上部大会へ推薦された場合、アナウンス部門ではJPEG形式のデジタル静止画像(5画像以内)、朗読部門では効果音やBGMを併用することができます。
15. 個人情報の取扱について
この大会に参加するためにご提供いただいた氏名等の個人情報は、大会運営のため以外には使用しませんが、大会運営、結果の公表のために、氏名、肖像などを、プログラム冊子、ホームページに公表することがあります。また、優秀な発表をホームページ等で公表する場合があります。
また、共催者であるSBC信越放送も、同様の目的で放送、ホームページにおいて公表することがあります。
大会参加の申し込みをもって、この件についてはご承諾をいただいたものと取り扱わせていただきますので、個々の参加者にこの件についてのご承諾をいただくことはしません。不都合がある場合は事務局までお問い合わせください。

【参考】アナウンス・朗読の原稿の原稿様式について

- ・下記の例にしたがって、添付ファイルではなく、メールの本文に下記様式の原稿を書いて12月8日(土)までに送信してください。従来の紙を綴じた原稿(台本)は受け付けません。
- ・件名には「 高校 朗読部門 (氏名)」のように、はっきりと記入してください。
- ・送信先は、h c o n @ j n e t . d i p . j pです

《アナウンス部門》 本文中、写真を投影するタイミングを明示してください。
写真は添付ファイルとして送信してください。

アナウンス部門	(1行目は参加部門)
上田北高校 長野太郎	(2行目は学校名 参加者の氏名)
別所温泉について	(3行目は作品タイトル 4行目から本文)

(写真1)信州の鎌倉と言われる別所温泉は、上田の塩田平にあり、全国的に見ても古い歴史をもつ温泉地の一つです。その昔、ヤマトタケルノミコトが東国征伐のとき、ここに温泉を開き、苦しみを除く七つの湯ということで、七久里の湯と名付けたといわれています。

(写真2) 清少納言の枕草子の中に、「湯は七久里の湯、有馬の湯、玉造の湯」という一節があります。この七久里の湯は、別所温泉であるともいわれています。また、平安末期の武将、木曾義仲も、この温泉の大湯に入浴し、傷を癒した言われています。(写真3)そして石湯は、真田太平記の中で、真田幸村の隠し湯としても登場しました。

今でも、共同浴場として、この二つの湯は、親しまれています。

(写真4) 硫黄の香りが漂うこの温泉には、いろいろな効能もあります。みなさんも一度は、歴史の漂う別所温泉を訪ねてみてください

《朗読部門》

朗読部門	(1行目は参加部門)
長野北高等学校 木谷 有沙	(2行目は学校名 参加者の氏名)
中河与一作「天の夕顔」	(3行目は作者名・作品名)
(4行目以下本文)	

著作物の取り扱いについて

1 音楽著作権の取り扱いについて

校内放送研究NO142（今年度NHK杯全国大会要項・本大会ホームページ <http://hcon.dip.jp/>）にもあります。）の手順に準じて、使用した音楽の著作権処理を確実にお願いします。一昨年度より、JASRACの管理曲に関しては、NHK杯のときのように、一括してJASRACへ使用料を主催者が支払うこととしています。ホームページで参加申込みをしたら、参加料とともに、所定の使用料（ビデオテープ関係・1曲420円、オーディオ関係1曲210円）を、大会当日までに、郵便局で支払ってください。JASRACの管理外のものを使用した場合は、各高校の責任で処理を行うことになります。

【音楽著作物の手続き方法について】

校内放送研究NO142（ホームページ参照）様式2-7等を参考に、レコード会社に音源の使用許諾の申請をし、許諾の回答を得てください。（隣接権の処理）

（この段階で、レコード会社から使用料の請求がある場合もあります）

レコード会社の許諾を得たものについて、校内放送研究NO142のP32～33の録音利用明細書の記入例にならって（JASRACのホームページに未記入の様式があります）記入して、ホームページからのエントリーと同時に、速やかに事務局へFAXしてください。

(ア) 録音利用明細書へは、フリーの音源を使用した場合も記入してください。（NHKの場合とこの部分が違います）CDなどの効果音集（音楽でないもの）を利用した場合は記入しないでください。

(イ) JASRACの管理下でない楽曲の場合は、直接レコード会社等との交渉で、直接権利者へ使用料を支払うことになります。

(ウ) 楽曲がJASRACの管理下にあるかどうかは、JASRACのホームページのJ-WDで確認できます。（<http://www.jasrac.or.jp/>）

(エ) JASRACの管理下の楽曲でも、外国曲（JASRACの作品コードの2桁目が英文字もの）は、この取り扱いはできませんので注意してください。

大会当日、「録音利用明細書」へ記入したものを他の提出物とともに、受付へ提出してください。その他JASRAC管理外のものを使用し、権利者と直接交渉した場合は、処理が完了したことがわかるものの写しを提出してください。

大会エントリーから大会当日までに「録音利用明細書」の記載事項に変更が生じた場合（なるべくこのような事態にならないようにしてください）

追加して支払う必要が生じた場合 差額をすみやかに郵便局へ振り込んでください。

使用しない楽曲が生じた場合 差額について、返金はできませんのでご了承ください。

その他の著作物（著作権フリーの音源も含む）とともに、様式2-6に記入し、台本に添付してください。

2 写真・動画・文章など、その他の著作物について

著作者の許諾をできるだけ得るようにしてください。

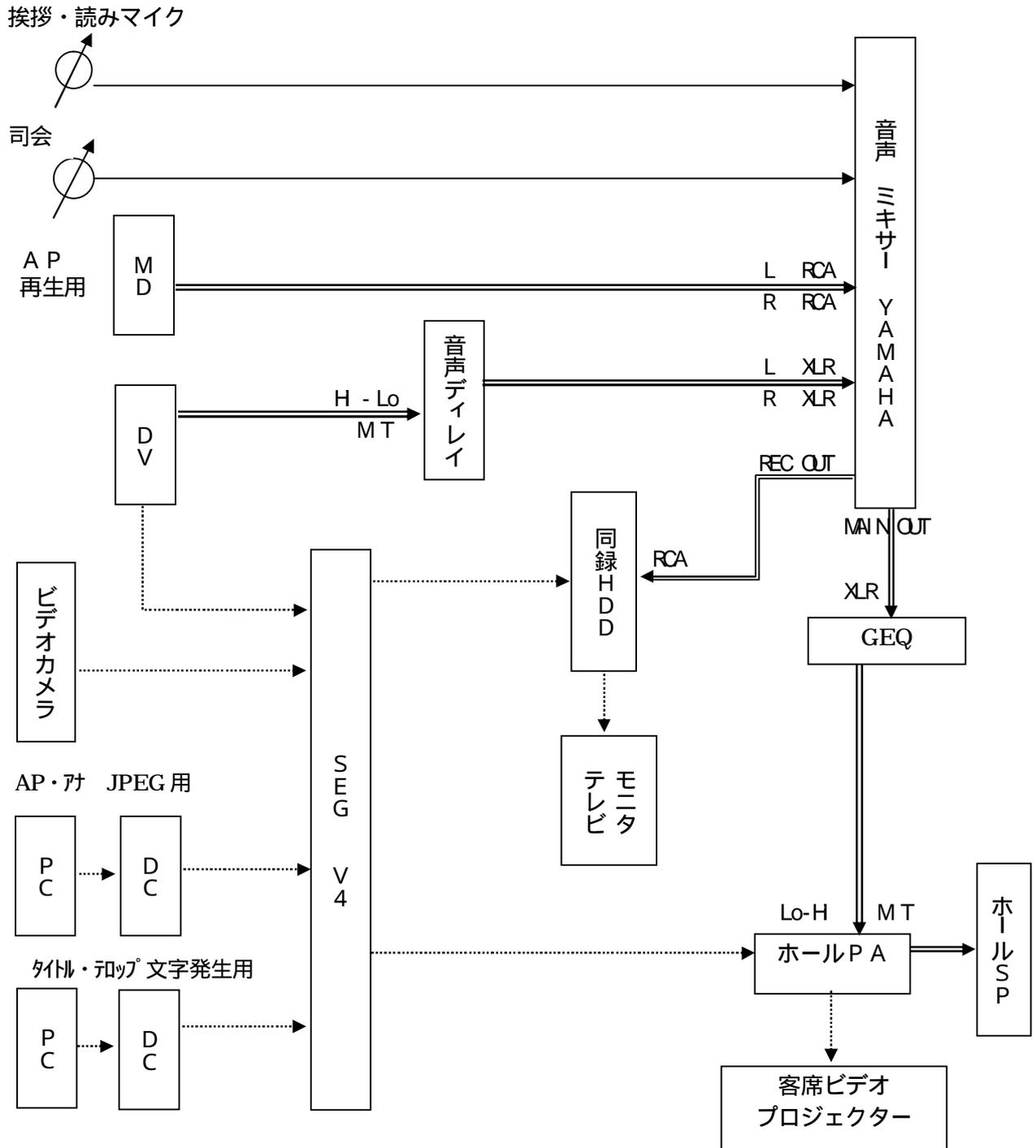
新聞、雑誌、テレビ放送等、商業利用されている著作物については、特に許諾を得てください。許諾を得た場合については、そのことを示すものを台本に添付してください。引用に当たる場合も含め、使用した著作物は、様式2-6に記入し、台本に添付してください。

3 全般

主催者として、使用した著作物、肖像権などに関し、トラブルが発生しても、一切その責任を負うことはできません。各団体において、責任もってその処理にあたってください。

上部大会の申込みまでに著作権等の処理が完了しない場合は、入賞ならびに上部大会への推薦の取り消しを行う場合があります。

系統図



県放送新人コンテスト昼食時顧問会検討事項

協議事項

1, 高文連放送専門部会の組織構造と議決について

, 専門部 事務局会 (事務局長・次長・理事長・会計)

, 専門部 理事会 (上記に加え、各地区理事4名)

, 専門部 顧問会(総会) (上記に加え、各校顧問)

が原案を立て、 に諮り検討する。その上で に提案し議決する。

内容によっては、 の了解のもと の理事会のみで先決することもできる。

2, 規約について

現在、来年度第1回総会(4月講習会時)を目標に、放送連盟の規約を精査し検討している。

来年度から高文連放送専門部会を主として活動し、そこから高視研専門委員会(名称改正あり)の役員を選出する。

放送専門委員会を「メディア教育専門委員会」に改称

3, 組織変更とクラブ分担金について

高視研からは、放送委員会分として定額助成とする(約30万円)

高文連で正式に承認来年度より1クラブ5000円の負担金徴収

4, 年末、指導者講習会派遣者 (中村 長野・山口 上田染谷丘)

5, アナウンス指導教本作成委員会 (中平・西林・山口・椿の4名)

6, 北信越大会審査員 ()

諸連絡

第32回全国高等学校総合文化祭
放送部門参加要領

1 目的

- この部門の開催目的を次のとおりとします。
 (1) 全国の高校生が、作品の制作や発表を通して全国の仲間と交流を深める。
 (2) 作品や原稿の作成を通して、自らの郷土を新たな視点でもう一度見つめ直す。
 (3) 美しい日本語を、アナウンス・朗読・ナレーションで表現することにより、言葉による表現のすばらしさを再認識する。

2 日 時

平成20年 8月9日(土) 9:00～18:00 (予定)
 8月10日(日) 9:00～18:00 (予定)

3 会 場

伊勢崎市文化会館
 〒372-0014 群馬県伊勢崎市昭和町3918番地 TEL (0270)23-6070

4 参加資格

全国高等学校総合文化祭開催基準第10条に基づき、参加資格を有する者とします。

5 部門および
発表者・
出品数

(1)	アナウンス部門	3名
(2)	朗読部門	3名
(3)	オーディオビジュアル(AV)部門	1作品
(4)	ビデオメッセージ(VMD)部門	2作品

※開催県については、それぞれの部門について2倍まで可とします。

6 発表
出品基準

- (1) アナウンス部門
 ア 郷土の話題を全国の高校生に伝える内容の原稿を作り発表してください。
 イ 発表時間は、学校名、氏名を含めて1分30秒以内とします。
 ウ JPEG形式のデジタル静止画像(5枚以内)を併用することができます。
 エ デジタル静止画像は、パソコンからビデオプロジェクター-1台で投影するものとします。
 オ デジタル静止画像の投影は、台本に従って開催県が担当しますが、希望により発表校で行うこともできます。
 カ デジタル静止画像のデータは、CD-Rにより提出してください。
 キ BGMは使用できません。
 (2) 朗読部門
 ア それぞれの郷土にゆかりのある作家または作品の中から原文のままを一部選んで原稿としてください。
 イ 発表時間は、学校名、氏名、作者名および作品名を含めて2分以内とします。
 ウ MDによる効果音やBGMを併用することができます。
 エ MDに1作品分を再生順に録音したものとします。
 オ MDは標準モードで録音し、MDLPは不可とします。
 カ MDのほかにも、音声スクリューの場合に備え、同じ内容のカセットテープも提出してください。
 キ 再生と音量調節は、台本に従って開催県が担当しますが、希望により発表校で行うこともできます。
 ク デジタル静止画像は使用できません。

7 規 格

- (3) オーディオビジュアル(AV)部門
 ア 郷土に関する話題を取り上げた作品としてください。
 イ MDによるステレオ音声とJPEG形式のデジタル静止画像(50画像以内)を併用する作品とします。
 ウ ドキエムンター形式、トラン形式など手法は問いません。
 エ 発表時間は5分以内とします。
 (4) ビデオメッセージ(VMD)部門
 ア 郷土に関する話題を取り上げた作品としてください。
 イ 自校オリジナルのビデオ作品とします。
 ウ 発表時間は5分以内とします。
 (1) デジタル静止画像(アナウンス部門)
 ア ビデオプロジェクターにより、パソコンからJPEG形式のデジタル静止画像(5画像以内)を投影するものとします。
 イ ビデオプロジェクターを1台使用できます。
 ウ デジタル静止画像の投影は、台本にしたがって開催県が担当しますが、希望により発表校で行うこともできます。
 エ デジタル静止画像のデータはCD-Rにより提出してください。
 (2) デジタル静止画像(AV部門)
 ア ビデオプロジェクターにより、パソコンからJPEG形式のデジタル静止画像(50画像以内、総容量は50MB以内)を投影するものとしてします。
 イ ビデオプロジェクターを1台使用できます。
 ウ デジタル静止画像の投影操作は発表校が行ってください。
 エ デジタル静止画像のデータはCD-Rにより提出してください。
 (3) 音声再生(朗読部門・AV部門)
 ア MDに1作品分を再生順に録音したものとします。
 イ MDは標準モードで録音し、MDLPは不可とします。
 ウ MDのほかにも、音声スクリューの場合に備え、同じ内容のカセットテープも提出してください。
 エ 再生と音量調節は、台本に従って開催県が担当しますが、希望により発表校で行うこともできます。
 (4) ビデオ(VMD部門)
 ア miniDV(DV規格は民生用)、もしくはVHS(S-VHSも可)のテープに録音したものとします。ただし、可能な限りminiDVにてご提出ください。
 イ テープモードは、「標準(SD)モード」とします。「長時間(3倍・LP)モード」は使用しないでください。
 ウ 音声は、「12bit stereo 1J 12bit stereo 2J 12bit stereo」のいずれか一つとし、ミックス再生は行いません。
 エ 作品本編の前後に20秒間の静止画によるラストパターンの形式(自由)を録音してください。
 オ 作品の再生は開催県が行います。
 (5) 共通事項
 ア 著作権に関する権利者の許諾が必要な場合は、出場各校で所定の手続きをしてください。
 イ 各部門とも、提出作品はほかのコンクール等に参加していないものとしてします。

- 8 発表順 開催県事務局で決定します。
- 9 審査講評および表彰
 (1) 審査および講評を、開催県で委嘱した審査員により行います。
 (2) 各部門とも特に優れた発表・作品に優秀賞を授与します。また、部門の基準に照らして表彰に値すると認められた発表・作品に、特別賞を授与します。
 (3) 講評会、表彰式は閉会式に先立って行います。
- 10 リハーサル
 A・P部門についてはのみ、希望校は次の日程で行います。
 (1) 期 日 平成20年8月8日(金) 12:00より(予定)
 (2) 場 所 伊勢崎市文化会館
- 11 交流会
 次のとおり生徒の交流会を行います。
 (1) 期 日 平成20年8月9日(土)・10日(日)
 (2) 会 場 伊勢崎市文化会館
 (3) 内 容 未定
- 12 関係会議
 次のとおり放送専門部関係会議を行います。
 (1) 期 日 平成20年8月8日(金) 14:00～16:00(予定)
 場 所 顧問会議
 (2) 期 日 都道府県代表者会議 16:00～17:00(予定)
 場 所 伊勢崎市文化会館
- 13 参加校推薦書の送付
 各都道府県の高等学校(芸術)文化連盟または教育委員会の指示に従ってください。
- 14 作品及び台本の提出
 各都道府県単位で一括して送付してください。
- 15 その他
 詳細については、平成20年3月に送付する「参加要項」等でお知らせします。
- 16 事務局
 〒371-8570 群馬県前橋市大千町一丁目1番1号
 群馬県教育委員会全国高校総合文化祭推進室(内)
 第22回全国高等学校総合文化祭 群馬県実行委員会事務局
 TEL (027) 226-4655 FAX (027) 243-7785
 E-mail gunmasoubun@pref.gunma.jp
- 17 部門の問い合わせ
 〒370-0041 群馬県高崎市東只沢町3-4
 群馬県立高崎商業高等学校(内)
 放送部会代表委員 森 匠泰
 TEL (027) 361-7000 FAX (027) 364-6148
 E-mail housou@gunmasoubun.com

第4回北信越高等学校選抜放送大会 福井大会・実施要項

1 目的

現代に生きる高校生の豊かな人間性の育成と、未来への展望を持つ人間としての成長をめざし、あわせて北信越地区における校内放送活動の健全な育成と放送教育の推進をはかる。

2 ねらい

- ア. 美しく豊かな日本語を大切にすること、あわせて、話す力、表現する力を高める。
- イ. 校内放送をメディア・リテラシーの美談として位置づけ、校内マスコミの送り手としての自覚と創造性を育てる。
- ウ. 現代社会における人としてのあり方、生き方を学ぶとともに、放送のはたす役割を考える。
- エ. 北信越地区における校内放送活動の向上をはかる場をつくる。

3 主催

北信越高等学校文化連盟 福井県高等学校文化連盟

共催 福井県教育委員会 福井市教育委員会

後援 NHK福井放送局 FBC福井放送 f t b 福井テレビ
福井新聞社 日刊県民福井 福井FM放送

協賛 仁愛大学 他

運営 福井県高等学校文化連盟放送部会

4 大会会場

「AOSSA」8F 福井県民ホール

5 大会宿舎

福井ワシントンホテル（会場から徒歩8分程度）

6 大会運営委員会

大会長 北信越高等学校文化連盟放送専門部会長 齋藤 康
 (福井県立足羽高等学校長) 藤村 直
 大会運営委員長 北陸高等学校 文物 柳
 大会運営事務局 福井県立羽木高等学校 川崎 直
 TEL: 0776-36-1678 FAX: 0776-36-1676
 E-mail: n-kawasaki@yuma.fukui-ed.jp
 福井県立足羽高等学校 福井県立足羽高等学校 (担当:澤田 聡恵)
 福井県福井市杉谷町44
 TEL: 0776-38-2225 FAX: 0776-38-2290

7 大会日程

平成20年2月9日(土)～10日(日)

日	時間	内容	会場
	14:00～	総合受付	ホール前
	14:30～14:50	開会式	ホール
	15:00～17:00	ビデオ・AMPセッション(VM)	ホール
	17:15～18:00	交流会	ホール
9日(土)	19:00～	各県代表者会議 北信越放送専門部総会 顧問情報交換会	ホール ワシントンホテル (部屋未定)

10日(日)	9:00～10:20	朗読部門	ホール
	10:40～11:40	アナウンス部門 <th>ホール</th>	ホール
	11:40～12:40	昼食・休憩 <td>昼食会場</td>	昼食会場
	12:50～14:00	ラジオ・オーディオビジュアル <td>ホール</td>	ホール
	14:00～14:30	審査 <td>ホール</td>	ホール
	14:30～15:00	成績発表・閉会式 <td>ホール</td>	ホール

8 コンテスト実施各部門ならびにエントリー数

部門	エントリー数	開催県(福井県)
アナウンス	各県6名	8名
朗読	各県6名	8名
ラジオ・AMP	各県2作品	3作品
ビデオメッセージ	各県4作品	5作品

ただし、開催県は通常エントリー数の1.5倍までの数の推薦を可とする。

9 参加資格

- ① 平成20年2月現在、高等学校文化連盟に加盟している、北信越各県の高専学校、特殊教育諸学校の高等部に在籍する生徒(ただし卒業年次を除く)、およびその作品であること。
- ② 各部門への参加は、各県高等学校文化連盟放送専門部の推薦による。
- ③ アナウンス・朗読部門への参加は、「1名1部門」とする。
- ④ 番組制作の各部門への参加は、原則として、ラジオ・AMP部門、ビデオメッセージ部門それぞれにつき、1校1作品とするが、各県の実情に合わせて1校あたりの出品数を増やしてもよい。なお、審査時には出品数による有利不利が生じないように考慮する。

10 審査員

アナウンス・朗読部門と、ラジオ・AMP部門およびビデオメッセージ部門のそれぞれについて、各県から1名ずつ推薦してもらい、さらに開催県から専門職、もしくはそれに準ずる者1名を加える。
 (専門職審査員1名+各県推薦審査員計5名の合計6名)

11 表彰

- ・アナウンス、朗読のエントリー生徒全員、番組にエントリーした学校全てを奨励賞として表彰する。
- ・アナウンス、朗読の各部門で成績優秀な生徒を、最優秀賞(1名)、優秀賞(3名)としてそれぞれ表彰する。
- ・ラジオ・AMP部門で優秀な作品を制作した学校を、優秀校(2校)、優良校(2校)として表彰する。これは作品に対する表彰ではなく、優れた活動をしている学校を表彰するものである。
- ・ビデオメッセージで優秀な作品を制作した学校を、優秀校(2校)、優良校(4校)として表彰する。これは作品に対する表彰ではなく、優れた活動をしている学校を表彰するものである。
- ・なお、全部門で若干数の「審査員特別賞(校)」を出すことがある。

12 各部門の課題・参加規定および規格

※以下の「番号」とは、発表順序を兼ねたエントリー番号をいう。

- (1) アナウンス部門
 郷土の話題を全国の高校生に伝える内容の原稿を作り発表する。
 発表時間は、「番号、学校名、氏名」を含めて1分30秒以内とできる。
 JPG形式のデジタル静止画像(5枚以内)を併用することもできる。
 エディタからパソコンからビデオプロジェクター1台で投影する。
 デジタル静止画像のデータは、CD-Rにより提出する。その際には、CD-Rのレーベル面側に、「番号、県名、学校名、生徒名、題名」を油性ペンで記入しておく。
 静止画を記録したCD-Rの中のファイル名は、半角で「番号-2桁/番号1」として、画像送出版に昇順となるように設定しておく。また最初に00、最後に99として「黒のみ画面」を入れること。

(例) ファイル名: A01-00.....黒画面
A01-01.....画像1

↓
A01-05……画像5
A01-99……黒画面

デジタル静止画像のサイズは1600×1200ピクセル以下とする。
デジタル静止画像の投影は、発表校が担当する。「開催県」での担当を希望する場合は、申込時にその旨を記入し、原稿に画像投影に関する記述を行うこと。
BGMの使用はできない。

(2) 朗読部門

それぞれ原稿にゆかりのある作家または作品の中から原文のままを一部選んで原稿とする。
発表時間は、「番号、学校名、氏名、作者名および作品名」を含めて2分以内とする。

イ CD-RあるいはMDによる効果音やBGMを併用することができ。なお、CD-Rのラベル貼付部分に、「番号、県名、学校名、生徒名、題名」を記しておく。
ロ クラスにも「番号、県名、学校名、生徒名、題名」を記したシールを貼ること。
ハ CD-Rを使用する場合は、通常の音楽再生用CDプレイヤーで再生可能を確認すること。
ニ MDを使用する場合は標準モードで録音し、LPモードは不可とする。
ヘ デイスクエラーの場合に備え、同じ内容のカセットテープを当日持参する。
エ CD-RあるいはMDの再生と音量調節は、発表校が担当する。「開催県」での担当を希望する場合は、申込時にその旨を記入すること。なお、「開催県」に再生を依頼する場合は、1作品分を再生順に録音し、音量調節を済ませておくこと。(作品名を讀んだ後に再生し、途中のポーズは入れない)
オ デジタル静止画像の使用はできない。

(3) ラジオ・オーディオビジュアルチャター (AV) 部門

原稿に関する話題を取り上げた作品とする。
CD-RあるいはMDによるステレオ音声とJPEG形式のデジタル静止画像 (50画像以内、総容量は50MB以内) を併用する作品が、もしくは音声 (ステレオ) のみの作品として、ドキュメンタリー形式、ドラマ形式など手法は問わない。
発表時間は5分以内とする。
ウ CD-RあるいはMDには再生ボタンを1つずつにまとめる。
エ CD-Rのラベル面、MDのラベル貼付部分に、「番号、県名、学校名、代表生徒名、題名」を記しておく。
オ クラスにも「番号、県名、学校名、代表生徒名、題名」を記したシールを貼ること。
カ CD-Rを使用する場合は、通常の音楽再生用CDプレイヤーで再生可能を確認すること。
キ MDを使用する場合は標準モードで録音し、LPモードは不可とする。
ク デイスクエラーの場合に備え、同じ内容のカセットテープを当日持参する。
ケ デジタル静止画像を記録したCD-Rの中のファイル名は、半角で「番号-2桁番号」として、画像送出版に早順となるように設定しておく。また最初に00、最後に99として「県のみ画面」を入れること。

(例) ファイル名 : P01-00……黒画面
P01-01……画像1
↓
P01-50……画像50
P01-99……黒画面

デジタル静止画像のサイズは1600×1200ピクセル以下とする。

静止画像の投影は、発表校が担当すること。
(なお、操作リハーサルは設定しておりませんが、希望により発表校で行ってもよい。
音声の再生は「開催県」が担当するが、希望により発表校で行ってもよい。

(4) ビデオメッセージ (VM) 部門

原稿に関する話題を取り上げた作品とする。
各校オリジナルのビデオ作品とする。
発表時間は5分以内とする。
ウ miniv (DV規格は民生用) のテープに録画する。
エ カセット、およびクォーツには「番号、県名、学校名、代表生徒名、題名」を記したシールを貼付する。
オ フラッシュメモリーは、「開催県」に使用できない。

カ 作品本編の前後に10秒間の静止画によるタイトルカーン (形式は自由) を録画する。
キ 作品の再生は「開催県」が行う。

(5) 各部門における共通事項

ア 著作物の権利等に関する処理は各校が責任を持って処理し、各県事務局で確認をしておくこと。
(内容証明等は、大会運営事務局では特には求めない)
イ 各部門とも原稿・作品は、他団体主催のコンクール等に参加していないこと。

1.3 様式規定

第5.4回NHK杯全国高校放送コンテスト要項の「校内放送研究」(赤本No.142)の様式に準ずる。
(コンテスト事務局からは使用承認済みです。)

(ア) ナンズ、朗読部門 (原稿規定)
① 様式1-1 (表紙)、様式1-2 (原稿) のA4版原稿用紙(400字詰め)を使用する。
② 縦書きとする。
③ 和綴じ(右開き)とし、できあがりA5となるようにする。
④ 各県事務局を通じて、大会運営事務局に3部提出のこと。
⑤ 「原稿」を、TXT形式のデータで記録したものを各県事務局に提出すること。
その際のファイル名は、「半角のエンター番号」とする。(例) A08.txt R12.txt
提出方法は、各県事務局の指示に従うこと。

(ラ) ジョ・A・P、V・M部門 (台本規定)
① 様式4-1 (表紙) 様式4-2 (制作意図) のA4版台本用紙を使用する。
② 台本部分については特に書式は定めがないが、文章の部分には縦書きとする。
③ 和綴じ(右開き)とし、できあがりA5となるようにする。
④ 各県事務局を通じて、大会運営事務局に3部提出のこと。
⑤ 「制作意図」をTXT形式のデータで記録したものを各県事務局に提出すること。
その際のファイル名は、「半角のエンター番号」とする。(例) P08.txt V12.txt
提出方法は、各県事務局の指示に従うこと。

1.4 各県からの推薦および、作品などの提出について

① 各県からの推薦は、各県放送専門部事務局を通じて行うものとし、学校あるいは個人の直接申し込み、作品・台本等の直送は受け付けない。
② 各県からの推薦は、エンター番号の使用する。このエンター番号は、そのまま大会の発表番号 (発表順) になるように、あらかじめ開催県で割り付けをしてお知らせする。
③ 大会事務局への各種締め切りについては以下の通りとする。
・県内での締め切りは、各県放送専門部事務局の指示に従うこと。
・大会事務局へのエンター番号推薦の締め切り ……平成19年12月20日 (木) 必着
・大会事務局へのデータ「原稿」「制作意図」 ……平成19年12月20日 (木) 必着
・大会事務局への台本、番組テープ、MD、CD-R
各県放送専門部事務局が点検後、一括して ……平成20年 1月18日 (金) 必着

④ 推薦エンター受け付け後、部門毎に少なくとも次の人数が参加できるよう該当校に「参加要請派遣文書」を送付する。
ア ナンズ、朗読 …… エンターする生徒1名と機器操作担当生徒1名
番組 …… 1作品に付き生徒3名

1.5 大会エンタリイ料

全部門とも1名もしくは1作品につき3,000円を大会参加費とする。
なお、納入は各県の事務局を通して県単位で一括納入する。

